

ツール 18 : SWOT 分析

このツールの目的

目標を達成するために重要だと思われる内部および外部の重要ファクターを特定することで、達成可能な目標を定める。

このツールを使うタイミング

MSPの多くのフェーズに相応しい。特に戦略策定時やレビュー/モニタリング・評価（M&E）の際に有用。

SWOT分析とは

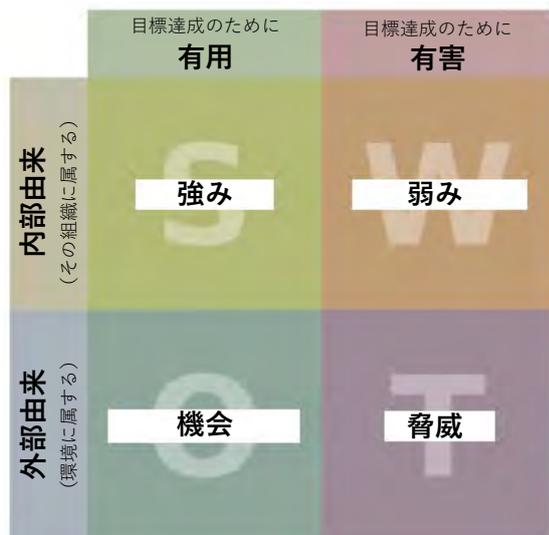
SWOT分析はよく知られた戦略策定ツールで、個人、グループ、組織の強みと弱みを見つけ出し、潜在的な機会と脅威を特定するために使われる。MSPにおけるSWOT分析は、参加者が策定しつつある戦略をレビューしたり、実行した特定の活動を評価する際の効果的なツールとなり得る。このツールを用いることで、参加者は、自分たちには何が達成可能か、どこに注力すべきかについて、現実的に考えることができるようになる。

強み、弱み、機会、脅威とは

<u>強み</u>	あるプロジェクトや状況において、物事がうまく進む側面やメンバーが誇りをもって語れること
<u>弱み</u>	物事がうまく進まない側面
<u>機会</u>	如何に弱みを克服し、強みを活かすか
<u>脅威</u>	変化のためのさまざまな機会を制約する、または脅かす要素

SWOT分析 – ステップ・バイ・ステップ

1. 強み・弱み・機会・脅威のそれぞれについて、グループでできる限り多くの要素を定義し、議論し、記録する。強みと弱みとは、そのグループやプロジェクト拠点、活動の内部的な側面を指すことを強調する。機会と脅威については、それらに影響を与える内的・外的ファクターのいずれでもあり得ると思ってよい。
2. 他の方法としては、たとえばワークショップの間、さまざまなサブグループがそれぞれ別個にSWOT分析を行う。さまざまなSWOTを比較することで、経験や可能性の違いや類似性についての建設的な議論が生まれる。
3. SWOT分析で得られた全体像を基に、どのようなアクションが必要かを議論する。この議論では、以下のような問が役に立つ：
 - 利用可能な機会を活用するために、我々の強みをどのように生かすことができるだろうか？
 - 脅威を回避するために、我々の強みをどのように使うことができるだろうか？
 - 我々の弱みに、どのように対処できるだろうか？
 - また、迫りくる脅威にはどう対処すればよいのだろうか？



ヒント：

SWOT分析は、調整可能でフレキシブルな手法であり、異なる認識を記録することができ、関係するメンバーの関心を共通のアクションに向けさせてくれる。

このツールは、多くの人に自分の意見を共有してもらう上で役立ち、たとえば戦略的計画策定プロセスの一環として、彼らが解決策候補や制約について検討できるようにしてくれる。SWOT分析ではまた、過去の過ちや弱さを題材にし、それを建設的な学びのプロセスに変換することができる。このツールは、複雑な問題を、可能な限り短時間のうちに対応しやすいものにしてくれる。グループの自己評価では、SWOT分析が有用なスタート地点となる。

少人数グループやワークショップの場合、SWOT分析をブレインストーミングとして行うこともできる。あるいは、さまざまな情報の分析と統合のために行うことも可能だ。最後に、SWOT分析は、多くの場合、ステークホルダー分析（ツール5、10、11、12）の補完ツールとしても有用だ。両者は共に、フォースフィールド分析（ツール16）前に実施するとよいツールである。

さらに知りたい方は：

<http://betterevaluation.org/evaluation-options/swotanalysis>

IFAD (2002) Managing for impact in rural development: A guide for project M&E. Annex D', page D 21.

www.ifad.org/evaluation/guide/annexd/Annex_D-3DEF.pdf

Start, D. and Hovland, I. (2004): SWOT Analysis, Tools for Policy Impact: A Handbook for Researchers, Overseas Development Institute, www.odi.org.uk/rapid/tools/toolkits/Policy_Impact/SWOT_analysis.html

<http://diytoolkit.org/tools/swot-analysis-2/>